

特定行為区分	感染に係る薬剤投与関連		時間	29
特定行為名	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与			
学ぶべき事項	(共通) 感染に係る薬剤投与関連の基礎知識	1. 感染症の病態生理 2. 感染症の主要症候と主要疾患 3. 感染症の診断方法 4. 主要感染症の診断方法 5. 主要疾患のフィジカルアセスメント		
	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与	1. 抗生剤の種類と臨床薬理 2. 各種抗生剤の適応と使用方法 3. 各種抗生剤の副作用 4. 感染徴候がある者に対し使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理 5. 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法 6. 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の副作用 7. 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む） 8. 感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスク（有害事象とその対策等）		
研修概要	(共通) 感染に係る薬剤投与関連の基礎知識	感染徴候時の病態生理や主要疾患の特徴を理解し、安全に薬剤の臨時の投与を実践できる看護師を養成する。		
	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与	医師の指示の下、手順書により、身体所見（尿混濁の有無、発熱等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、感染徴候時の薬剤を投与する。		
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、感染徴候があるものに対する薬剤の臨時の投与ができるようになる。			
	2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。			
	3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。			
	4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。			
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト			
	演習：ペーパーシミュレーションによる演習及び模擬講義			
	試験：eラーニング上もしくは集合で修了試験を実施			
研修内訳	講義（25時間）	視聴時間45分＋講義確認テスト15分		
	演習（4時間）	視聴時間（イントロ）5分＋グループワーク45分＋視聴時間（解説）10分 ※演習はeラーニング教材を活用して指定研修機関で行う		
	試験	※修了試験は指定研修機関ごとに時間・設問数など設定してご利用ください		

学ぶべき事項		講師	所属	研修方法	通番
(共通) 感染に係る薬剤投与に関連の基礎知識	感染症の病態生理 (1)	加藤 英明	横浜市立大学附属病院感染制御部	講義	1
	感染症の病態生理 (2)	加藤 英明	横浜市立大学附属病院感染制御部	講義	2
	感染症の病態生理 (3)	三村 一行	東邦大学医学部微生物・感染症学講座	講義	3
	感染症の病態生理 (4)	小野 大輔	東邦大学医学部微生物・感染症学講座	講義	4
	感染症の主要症候と主要疾患 (1)	渋江 寧	横浜市立みなと赤十字病院感染症科	講義	5
	感染症の主要症候と主要疾患 (2)	渋江 寧	横浜市立みなと赤十字病院感染症科	講義	6
	感染症の主要症候と主要疾患 (3)	渋江 寧	横浜市立みなと赤十字病院感染症科	講義	7
	感染症の主要症候と主要疾患 (4)	根本 隆章	川崎幸病院感染制御科	講義	8
	感染症の主要症候と主要疾患 (5)	根本 隆章	川崎幸病院感染制御科	講義	9
	感染症の診断方法 (1)	西田 裕介	埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科	講義	10
	感染症の診断方法 (2)	西田 裕介	埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科	講義	11
	主要感染症の診断方法 (1)	岡 秀昭	埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科	講義	12
	主要感染症の診断方法 (2)	岡 秀昭	埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科	講義	13
	主要感染症の診断方法 (3)	岡 秀昭	埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科	講義	14
	主要疾患のフィジカルアセスメント	林 良典	順天堂大学医学部 総合診療科 / NTT東日本関東病院予防医学センター	講義	15
(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与	抗生剤の種類と臨床薬理 (1)	吉田 明弘	福井厚生病院薬剤部	講義	16
	抗生剤の種類と臨床薬理 (2)	吉田 明弘	福井厚生病院薬剤部	講義	17
	各種抗生剤の適応と使用方法 (1)	金井 威	群馬県立公立富岡総合病院薬剤部	講義	18
	各種抗生剤の適応と使用方法 (2)	金井 威	群馬県立公立富岡総合病院薬剤部	講義	19
	各種抗生剤の副作用 (1)	永井 徹	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部	講義	20
	各種抗生剤の副作用 (2)	永井 徹	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部	講義	21
	感染徴候がある者に対し使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理	原 弘士	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部	講義	22
	感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法	原 弘士	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部	講義	23
	感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の副作用	永井 徹	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部	講義	24
	感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスク (有害事象とその対策等)	原 弘士	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部	講義	25
	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) : 肺炎	岡 秀昭	埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科	演習	26
	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) : 尿路感染症	岡 秀昭	埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科	演習	27
	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) : CDI	原 弘士	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部	演習	28
	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) : MRSA	原 弘士	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター薬剤部	演習	29